

# 『福翁自伝』のすゝめ

富澤一弘

経済学部在學生にとって、福澤諭吉(生一八三四―没一九〇一)の著述は、必読書と思われませんが、殊に、大学一、二年生にとって、『福翁自伝』は、必読書中の必読書であります。

本書は明治三〇年、最晩年に近い福澤諭吉が、自らの生涯を速記者を前に口述、その速記本に後日、全面的加筆を施して完成させた渾身の力作・自叙伝であります。

学生諸君の認識では、福澤諭吉は啓蒙思想家、であり、経済学者という認識は希薄かも知れません。しかしながら福澤諭吉は、同時代を代表する大ジャーナリスト、大政治学者であるとともに、最も傑出した大経済学者のひとつであり、その名論卓説は明治一五年創刊の「時事新報」——明治期を代表する最高級紙にして、福澤諭吉その

人が刊行——にほぼ毎日登場しております。

『福翁自伝』は、この大学者の幼年期から筆が起こされ、蘭学修業の青年期(長崎、大坂、江戸)から幕臣時代、そして教育者として生きることになった維新时期以降について、実に詳しく綴られており、本書自体が経済史学や歴史学、文学、言語学、医学、教育学等、諸学問の生きた資料であります。

しかも本書は、偉人崇拜の礼賛書のような文獻とは異なり、福澤諭吉自らが一人称にて自己の来しかたを回想するものであり、全編これ素の手柄が表れております。独立不羈の旗をかざし、金銭的買収にも、また暗殺的脅迫にも微動だにしなければならぬ人物は、本書の中で大の酒豪家、大の愛煙家であつたことを隠しておりませんし、

大坂適塾時代の武勇譚、失敗譚を知る読者は、ガルガンチュアのような哄笑を浮かべて、さらにこの主人公を好きになることでしょう。

『福翁自伝』のこの一冊は、諸君の人生を変える契機となるかも知れない、そんな素晴らしい書物であります。もし本文を通じて興味関心を抱かれた諸君は、大学附属図書館に何セットも架蔵されておりますので、是非、手にとって下さい。また購入を希望されるむきは、『新訂福翁自伝』(福澤諭吉著、富田正文校訂、岩波文庫、岩波書店、七〇〇円)を最寄りの書店にて注文されればよいでしょう。さらに福澤諭吉を通じて近代日本経済史を勉強してみたい、という諸彦は、日本経済史研究室の扉を叩いて下さい。



KAZUHIRO TOMIZAWA

1963年生。経済学部教授。  
専門分野は、近世・近代経済史学、近世・近代史学。近代蚕糸業史研究、近代農村生活史研究を二大テーマとして、目下両者の統合を検討中。

キャンパスライフへの  
キックオフ!

KICK OFF!